



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2014.10

No.366

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



GPSやスマホを使って鳥見を楽しんでいます

相原 修一（鴻巣市）

初めての探鳥会・探鳥旅行に参加した場合、あとで観察した場所や廻ったコースなどが分かると面白いと思い、4年程前から携帯型GPSで行動の軌跡を記録しはじめました。

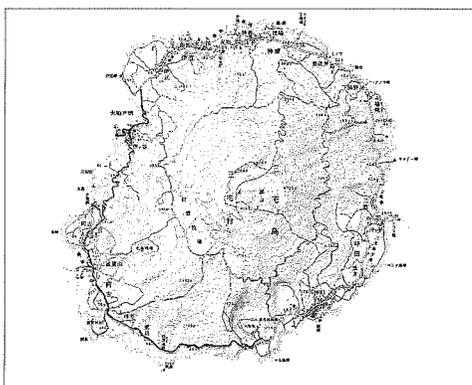
● GPSとは

グローバルポジショニングシステム/全地球測位システムの略で、複数の人工衛星の電波を受信して、自分がどこにいるかを割り出すシステムです。元々は軍事用ですが、カーナビや携帯にも利用されているのは、ご承知の通りです。個人向けの携帯GPSは、登山、自転車、ランニングなどに向けたタイプがあり、数千～数万円程度で市販されています。

● どんなことができるのか

数秒毎に経緯度・高度が記録されます。パソコンに取り込み、無料で利用できる地図上に表示すると、移動した軌跡と速度が分かります。

例えば2010年5月の三宅島探鳥会。その軌跡が下の地図です。



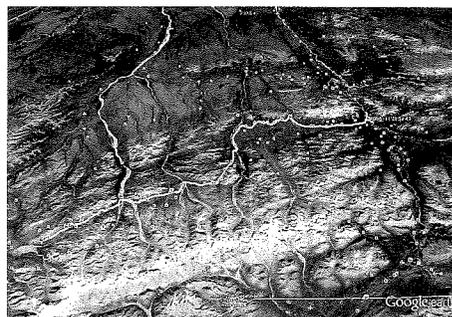
大路池付近だけを拡大（右上の地図）すると、アカコッコ館や宿泊した民宿の位置が良く分かります。夜に民宿付近で、Y氏がアオバズクを呼んでいたのも、思い出されます。

また写真の整理で撮影場所を忘れた場合には、撮影時刻と軌跡から場所が特定できます。最近のカメラはGPSを内蔵したものがあり、



撮影場所の経緯度が分かるので簡単です。私のカメラにはついていませんが。

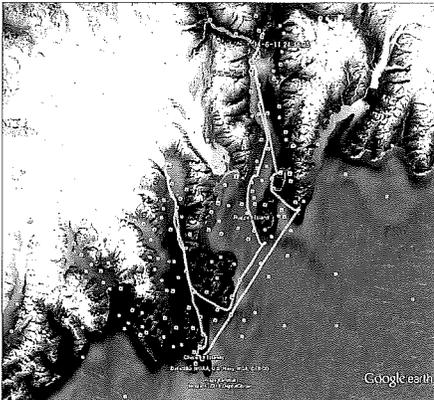
次はアラスカ旅行2011年6月。当会のN先輩に連れて行って頂いた初めての海外探鳥旅行でした。ある日の軌跡データをGoogle Earthに取り込みました（下の写真）。



この日の日中はデナリ国立公園をバスで移動、途中でイヌワシ、グリズリー、オオカミなどと出会えました。航空写真なので雄大な渓谷の雰囲気が分かります。右端が泊まったホテル、地図を拡大（次ページ左上）していくとホテルの建物も確認できます。



別の日、観光船（下の写真はその航跡）に乗り氷河が海に流れ出すのを見ました。途中の島にはエトピリカ、ツノメドリが多数休んでおり、海面や岩肌には数万羽のウミガラス、おまけにザトウクジラの群れも見られたのが感激でした。



このように、GPSでの記録は数年前の旅の思い出が目の前に鮮明に浮かんできます。私は軌跡とチェックリストをセットで保存しておき、時々眺めては楽しんでいます。

● スマホでGPS

専用のGPSを購入しなくてもお手持ちのスマホでも出来ます。無料のアプリを導入すれば、簡単に軌跡をスマホでの地図上に表示したり、パソコンに転送したりして楽しめます。

欠点は、GPS専用機と比べて、電池の持ちが悪いことです。山間部など電波圏外では急速に電池が減るので、予備バッテリーが必要となりますが、圏外にならない普通の探鳥場所では、GPS専用機よりスマホの方が簡単で便利です。

またスマホであれば他の用途にも活用でき

ます。いくつか紹介すると

① さえずりナビ：

野鳥の鳴声を時期（月）、環境（森林、公園、海辺など）、場所（樹上、水面など）、時間（日中・夜）、タイプ（単音繰り返し、フレーズなど）から地図上で検索、または種名から検索し簡単な説明と鳴声を聞くことが出来ます。

ただし、探鳥場所で鳴声を大きな音で再生することはやめましょう。野鳥を驚かせてしまいます。

② 山カメラ：

探鳥会で「あその山は？」と思ったことはありませんか？ そんなときスマホを山に向けると山名・標高が表示されます。山名をクリックすればさらに詳しい情報が表示できます。

③ 超望遠カメラ：

スマホをスコープに取り付けるアダプタもいくつか発売されています。簡易デジスコですが、取り付け、取り外しが実に簡単です。そのため、観察主体で、時々望遠写真も撮りたいという用途に向きます。もっとも撮影の腕が悪いので私には綺麗に映せません。

④ 天気予報：

色々な無料アプリがあります。野外で急な雷雨にあうと危険なので、早めの避難に役立ちます。

⑤ その他諸々の検索：

観察中に疑問に思ったことを検索し、その場で調べます。この“その場”というのは結構大切なことで、年のせいには出来ませんが、家に帰ると忘れてしまうことが多いのです。

※三宅島の地図は、カシミール 3D（ホームページ <http://www.kashmir3d.com/>）を使用しました。

近頃、電子機器を使つての観察会が増えています。ある観察会での講師は、その場でiPadを使って様々な赤トンボの違いを説明してくれました。実にわかりやすく、よく理解できました。探鳥会でも、電子機器のいろいろな活用方法がありそうです。アイデアをお寄せください（編集部）。

コムクドリの集団ねぐら、今年も OPEN!!

石川敏男(春日部市)

8/7、18:20頃、春日部市大沼運動公園南西角のユリノキ(昨年の『しらこぼと11月号』参照)にコムクドリの群れがねぐら入りするのを確認。近くの電線にも20羽位のコムクドリが止まっていて、機会を待っている様子。18:25、ユリノキに入っていたコムクドリが大集団で飛び出し北へ向かい、ほどなくして一度旋回後、ユリノキへ飛び込んだ。大集団は1,000羽は下らなかつた。その後、50~60羽位の群れが北方から10数羽飛来し順次、ユリノキへ入った。18:40にはねぐら入りの波は止んだ。

なお、8/5の夕方には何の変化も見られていない。8/6は都合で行けず未確認。よって、6日か7日にねぐらとして使用開始したと見てよいだろう。

追記:岩槻の0さんによれば、8/8は05:01に大群が飛び立ち、18:28に一度飛び出した大群がねぐらに戻って終わり。8/9は17:35にテニスコート北側のケヤキに第一波7~8羽が飛来。風雨強まり17:47に観察中止するまで、計12波約65羽が同じケヤキに集合した。その後、ユリノキに入ったと思われる。



(同所のコムクドリのねぐら入り 藤原寛治)

2014年8月号P5「オオハムとシロエリオオハムの識別」後日談(編集部)

『しらこぼと』の編集に携わる者としてうれしいことがありました。日本野鳥の会の支部ネット通信2014年8月号に掲載された「新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み」という文の一部です。少々長いのですが引用します。

<シロエリオオハムの首は青い?>

増補改定版の参考文献の頁に「全国の支部報も参考にさせていただきました」と書いたように、分布や生息状況の確認にも、新たな情報を加えるか?修正するか?という判断をするためにも目を通していただいています。

例えば、日本野鳥の会埼玉の『しらこぼと』8月号に榎本秀和さんが「シロエリオオハムの夏羽の前頸の色は、図鑑に記されているほどオオハムと違わないのではないか?」という主旨の投稿をされていました。実は、「高野さんが描いたシロエリオオハムの前頸は青すぎないか?」という指摘があり、直すべきか?悩み続けてきました。

この部分は光線の具合で見え方はさまざまなので、強いてオオハムと違いを強調して描かれた可能性もあります。高野作品を歴史的遺産として残すというミッションから、間違いと言えない限りは直さないという原則があり、微妙な課題だったのですが、8月4日、高野図版の微修正の最終日、谷口高司さんに僅かに色味を変えていただきました。榎本さんが投稿されたように、オオハムとの違いが微妙であることは間違いありません。図鑑としては、そこで簡単に識別できると誤解されるようではまずいと結論に至った次第です。(普及室/安西英明)

つまりは、図鑑改訂の際に判断材料の一つとなったというわけです。

『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の1日も早い発刊を待っています。そして、入手したら真っ先にシロエリオオハムの項を見るつもりです。(山部)



野鳥情報

さいたま市桜区上大久保 ◇7月16日、三方をマンションに囲まれた小さな調整池でカルガモが子育て中。8羽のヒナがピーピー鳴きながら、親鳥の周りで元気よく泳いだり、潜水したり。道行く人たちも足を止めて眺める。池には、ヨシヤガマ類、イヌコリヤナギ等が茂り、シオカラトンボやコシアキトンボが飛び交い、時折ウシガエルの声が「ヴォー、ヴォー」と轟いていた（大塚壮一・純子）。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇7月20日、昭和沼の浮島にダイサギ、コサギ、アマサギ、アオサギ、ゴイサギ多数（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区南中野 ◇7月28日午前6時30分頃、日大構内の針葉樹の梢にムクドリ数羽の群れ。中にコムドリが1羽。7月29日午前6時30分頃、エノキやハンノキの小さな林にコムドリ7、8羽。8月1日午前7時頃、ムクドリ6羽、コムドリ6羽、電線に並ぶ（小林みどり）。

春日部市大沼運動公園 ◇7月28日午後6時頃、同公園正門付近にてシラコバト1羽が電線にとまっていた。軽い声で「ポッポッ、ポッポッ」と鳴いてくれた。昨年8月下旬に公園西方交差点「防災センター」周辺にいた個体かと思う（石川敏男）。

毛呂山町長瀬駅前 ◇8月1日午後6時55分～7時5分、越生線武州長瀬駅前の街路樹にハクセキレイ約50羽。6時55分頃から、周辺建物の屋上の縁、屋根、TVアンテナなどに各方向から飛来し、とまる。7時5分頃に、次々と一本の街路樹に、瞬入りする。昼間の近辺では2～3羽の姿しか見ないのに、どこから来るのだろうか？（増尾 隆）。

川越市伊佐沼 ◇8月7日、セイトカシギ7羽。去年は4羽だった（大川清久）。

さいたま市見沼区加田屋 ◇8月8日、加田屋川の上をカワセミ1羽。久々の登場。8月13日、オオヨシキリが小声でさえずる（小林みどり）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇8月10日、久しぶりにコジュケイの声。8月18日、タカ5羽のタカ柱（サシバ3羽、トビ2羽）。サシバ2羽は南に、トビ2羽は北にそれぞれ流れた。サシバの渡りは今季初認。8月27日、ムクドリ50羽士の群れが飛び去った後にコムドリ8羽が残った。ここでの今季初認。8月29日、ツミの巣立ち雛が電線にとまっていた（長嶋宏之）。

春日部市谷原新田 ◇このところほぼ毎日、大沼公園のコムドリのねぐらを観察しているが、ねぐら手前の秀和総合病院の周囲ではチョウゲンボウを目にするようになった。ねぐら入り前に多数のスズメが集まってくるからだろう。8月11日午後6時33分、病院西側の市の西部浄水場タンク近くで1羽。8月23日午後4時40分頃、近くの大沼中学校上空を病院へ向かう1羽。8月24日午後5時27分、病院を何度も周回しスズメを追い回している2羽。8月25日午後5時45分、前日同様の行動をしている2羽。恐らく、同じ個体と思われる。なお、昨年、自宅南方の別の病院でもたびたび1羽を見かけた（石川敏男）。

さいたま市北区芝川（県道2号線～鷲山橋）

◇8月12日、ゴイサギ成鳥1羽、飛ぶ。ここで見るのは冬以来。他にアオサギ1羽、ダイサギ1羽（小林みどり）。

さいたま市西区・桜区の鴨川 ◇8月14日午前中、島根橋～在家橋付近で川面に張り出したタチヤナギの下、漂着物が広く堆積した所でアイガモ、カルガモ各1羽（いつも一緒）、オナガガモ♀エクリプス1羽が上がって休む。近くでヒドリガモ♀エクリプス1羽が盛大に羽ばたいて水浴び。雨覆の白が目立つ。他にカルガモ20羽＋、アオサギ2羽、コサギ2羽、チュウサギ1羽、ゴイサギ成鳥2羽、幼鳥5羽、イソシギ3羽、カワセミ1羽など。ふわふわの小さな玉のようなカルガモ幼鳥が1羽、水上を急ぐ。在家橋をくぐり、江川の水門内を一巡後、再び川下へ。家族とはぐれたらしい。鴨川に注ぐ別の水路の奥の真っ暗闇からカルガモ親子が出現。3羽の子ガモが素早く輪を

描いて及び回る。1羽が川へ落下。20cm程の段差があり、戻れず「ピーピー」鳴く。親は「グエグエグエ」と呼びかけ、他の子供共々川へ降り、4羽揃って泳ぎ去った。ホオジロがさえぎり、ツバメが短く鳴いて飛ぶ。ギンヤンマやチョウトンボも見られた。8月5日に上流の藤橋付近で見かけたカルガモ親子は親1羽に子5羽が後方に密着して泳いでいた(大塚壮一・純子)。

春日部市武里中野 ◇8月21日午後4時59分、北西の方からムナグロ6羽の群れが鳴きながらサッカーグラウンド(芝地)に降下した。西よりチョウゲンボウ1羽が飛来したため、すぐに舞い上がり、上空を旋回しつつ、これをやり過ぎて再びグラウンドに降りようとした。結局、降りることなく東方へ飛び去った。6羽とも胸腹部は白地に黒の斑点、夏から冬へ換羽途中の個体だった。当地、今秋の初認(石川敏男)。

蓮田市堂山公園 ◇8月18日～19日、サンコウチョウ♀1羽⇒下写真。2日の滞在で抜



けた。8月28日、ツミの幼鳥が2羽。樹冠で追いかけてこしていた(長嶋宏之)。

さいたま市見沼区蓮沼 ◇8月22日午前6時頃、コムドリ8羽、電線に並ぶ。すべて♀型。別の場所でムクドリ10羽+の群れにコムドリ♀型1羽(小林みどり)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇8月25日午前10時頃、シジュウカラ、エナガ、コゲラの混群の中に、ムシクイを見かけ、探していたら、オオルリみの姿を見つける。こんなに早く見たのは初めてで、ちょっと驚いた。ムシクイはセンダイムシクイだったと思うが確信はなし(菊川和男)。

鴻巣市大間一丁目 ◇我が家の前の電線に、13羽+のツバメが大集合。集団ねぐらに合

流する前の小休止? 今季初めてのショウドウツバメもちらほら飛ぶ。8月25日、朝からの曇天に薄日が射し始めた午後12時30分頃、玄関先を箒で掃いていて、上空を飛ぶハチクマに気が付く。見えた方向は違うが、少なくとも2羽が旋回していた。これって、珍しく掃除を手伝ったご褒美?(榎本秀和)。

春日部市倉常 ◇8月26日。ダイサギ、チュウサギ、コサギ、コチドリ、セイタカシギ成鳥2羽、幼鳥2羽、クサシギ1羽(小林みどり)。8月30日、アオサギ、ダイサギ、コサギ、コチドリ、タカブシギ1羽、イソシギ1羽、トウネン1羽(小林洋一、小林みどり)。

川越市通称南古谷地区 ◇8月26日、久しぶりの休み、久しぶりに鳥見でも…と、たまたまクラブが休みだった息子をこれまた久しぶりに連れ出した(無理矢理)ものの、途中から雨も降りだすあいにくの空模様、車中の空気もどんより。到着すると水面に浮かぶ小さな鳥影、アカエリヒレアシシギ1羽!他にもアオアシシギ1羽、ヒバリシギ2羽、クサシギ2羽、タシギ4羽。うって変わって明るい帰路に(石塚敬二郎)。

さいたま市岩槻区と蓮田市の境 ◇8月21日、若鳥と思われるオオタカ1羽、赤坂沼のあたりから飛び出し、蓮田SAの方へ飛び去る。ショウドウツバメ、群れ飛ぶ(小林みどり)。◇8月28日、ゴイサギ3羽、アマツバメ1羽。小雨の中、サシバ1羽が田んぼをかすめるように飛び、電線にとまるが、ちょっと目を離れたときに姿を消す。今季初認(今村富士子、小林みどり)。

久喜市菖蒲町小林 N36.0563 E139.5991

◇8月31日、セイタカシギ4羽、ゴイサギ幼鳥3羽(長嶋宏之)。

表紙の写真

カイツブリ目カイツブリ科カンムリカイツブリ属カンムリカイツブリ

10月に渡って来たばかりの冬羽は、雌雄不明で無精ひげがあるけど、なんとなく妖艶な美女に見えませんか。自転車男(さいたま市)



行事案内



キビタキ若鳥

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月5日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス8:36発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、浅見、大坂、岡安、柴田、立岩、飛田、内藤、永野、村上、山野、吉原(早)

見どころ：この時季の石戸宿は、何と言ってもヒタキです。コサメビタキにエゾビタキ。運が良ければサメビタキにも会えるかも知れません。青空を背景に猛禽も飛ぶかな。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：10月5日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き8:37発で「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：須崎、赤堀、伊藤、大井、手塚、野口(修)、藤田

見どころ：芝川第一調節池のシーズンがやってきました。留鳥・夏鳥・通過する鳥・冬鳥が一度で見られる(かもしれない!?) 貴重な探鳥会です。芝川第一調節池周辺をゆっくり歩きたいと思います。

ご注意：①途中トイレがありません。②強風等天候によってはコースを変更します。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月12日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:50発に乗車。

担当：新井、鶴飼、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：夏鳥が去り、冬鳥を待つ間の主役は秋の渡り鳥。ノビタキ、エゾビタキ、シヨウドウツバメ、ツツドリなどとの出会いを期待して、秋風を感じながら歩きましょう。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月18日(土)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷 7:21→春日部 7:36→南栗橋 7:52→柳生 8:06 着。または JR 宇都宮線大宮 7:03→栗橋 7:38 着で東武日光線乗り換え、柳生 8:06 着。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：佐野、植平、佐藤、進士、田邊、玉井、野口(修)、茂木、山田

見どころ：まだまだ渡りの季節で、ここ何年かはツツドリが見られています。エクリプス(カモのオスの非繁殖羽)には手こずりますが、悩むのもまた楽しい。お気軽にご参加ください。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月18日(土) 午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：10月19日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ(注意：担当者は8時過ぎに北浦和東口到着予定です)。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：須崎、青木、赤堀、浅見、石塚、楠見、小菅、小林(み)、柴野、新部、畠山、増田
見どころ：10月は「ノビタキ探鳥会」です。昨年は雨のため中止。1年でこの時期だけの出会いですから、今年こそは晴れて欲しい。芝川沿いを歩く予定です。

川越市・西川越探鳥会

期日：10月19日(日)

集合：午前9時15分、JR川越線西川越駅前。
交通：JR 埼京線大宮 8:36→川越で9:06 発高麗川行きに乗り継ぎ→西川越 9:09 着。

担当：佐久間、中村(祐)、長谷部、山口、山本

見どころ：今年の夏は涼しかったのですが、さて秋はどうでしょうか。モズ、タカ類など、北からの鳥は順調に来てくれるでしょうか。ジョウビタキ、カモ類に期待します。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：10月25日(土)～26日(日)

詳細は9月号をご覧ください。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月26日(日)

集合：午前9時30分、県立さきたま史跡の博物館前レストハウス。

交通：JR 高崎線吹上駅北口から、朝日バス 8:47 発、行田折返し場行き(佐間経由)で「産業道路」下車、徒歩約15分。またはJR 行田駅東口から、行田市内循環バス・観光拠点コース左回り 9:05 発で「埼玉古墳

公園前」下車、徒歩約2分。

担当：相原(修)、相原(友)、大坂、岡安、竹山、立岩、内藤、野口(由)、村上、茂木
見どころ：暑い夏も過ぎ去り、秋の風景のなかの古墳と、来たばかりの冬鳥たち。ここでの定番のジョウビタキには会えるでしょうか？

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月1日(土)

集合：午前8時、丸山公園北駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口①番バス乗り場から、西上尾車庫行き(畔吉経由)7:32発で「畔吉」下車、徒歩約8分。

担当：大坂、浅見、阿久澤(キ)、阿久澤(廣)、柴田、立岩、永野、野口(由)、山野
見どころ：いよいよ冬鳥の季節になりました。公園のきれいな紅葉も見たいですね。勿論ジョウビタキやシメたちに会えることを期待して早朝探鳥会にお出かけください。防寒対策は充分に。

栃木県・中禅寺湖足尾松木溪谷探鳥会(要予約)

期日：11月30日(日)

集合：午前6時45分、東武野田線岩槻駅改札口。

解散：集合場所にて午後7時30分ころの予定。

交通：往復貸切バス(大型)を利用。

担当：入山、佐野、長野、野口(由)、藤原
費用：7,000円(バス代、保険料等)。過不足の場合は当日清算。

定員：25名(応募者多数の場合、先着順)最少催行人数は20名。

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢(保険加入に必要)、電話番号を明記して入山博(

まで。10月1日消印から受付開始。

見どころ：久しぶりにオオワシを初冬の日光に探しに行きます。運が良ければ、憧れのイヌワシが見られるかもしれません。

その他：当日の天候次第で探鳥地の変更があります。昼食持参。雨天決行。防寒の対策をお願いします。

今後の探鳥会予定（11～12月分）

普及部では、毎年2月、6月、10月に、それぞれ5～8月、9～12月、翌年1～4月の『行事予定表』を作成し、役員会で承認されたのちに3月、7月、11月に『普及部だより』とともにリーダー全員に郵送しています。

会員の皆様が中長期予定を組む便利を考え、この『行事予定表』から探鳥会に関する情報を抜粋して『しらこぼと』にも掲載することにしました。今回は、ちょっと遅れて、とりあえず今年の11月と12月の探鳥会予定です。今後、年に3回（3月号、7月号、11月号に）「4ヵ月予定表」を掲載したいと思います。

【ご注意】この「予定表」は、変更される場合があります。確定情報として、当該月の『しらこぼと』行事案内をご確認ください。

2014年11～12月 探鳥会予定表

月	日	曜	探鳥地
11	1	土	上尾市丸山公園
	2	日	松伏町まつぶし緑の丘公園
	9	日	熊谷市大麻生「定例」
	9	日	春日部市内牧公園
	13	木	羽生市水郷公園（平日）
	15	土	さいたま市見沼自然公園
	16	日	さいたま市三室「定例」
	16	日	嵐山町菅谷館都幾川
	23	祝日	本庄市坂東大橋
	23	祝日	志木市柳瀬川
	29	土	加須市渡良瀬遊水地
	30	日	狭山市入間川「定例」
	30	日	蓮田市黒浜沼
	30	日	栃木県中禅寺湖・足尾松木溪谷（要予約）
12	6	土	所沢市狭山湖
	7	日	北本市石戸宿「定例」
	7	日	さいたま市民家園「定例」
	7	日	加須市加須はなさき公園
	14	日	熊谷市大麻生「定例」
	14	日	さいたま市岩槻文化公園
	17	水	渡良瀬遊水地（平日）
	20	土	滑川町武蔵丘陵森林公園
	21	日	さいたま市三室「定例」
	23	祝火	年末講演会
28	日	幸手市宇和田公園	
1	4	日	さいたま市さぎ山記念公園

支部HPリニューアル（予告）

IT委員会から

支部HP（ホームページ）リニューアル版公開の目途が立ちました（この『しらこぼと』が発行されるころには、公開されている？）。

そこで、この誌面をお借りして、新HPの見どころについて宣伝させていただきます。1. まずは、トップページ。デザインが一新されました。青いシラコバトのシンボルマークが可愛いでしょ！ 以下に、トップページから行く、おすすめページを紹介します。

2. 左端に縦にズラリと見出しを並べました。「探鳥会」、「野鳥Q&A」、「販売物のご案内」など一つ一つクリックしてみてください。お役立ち情報が満載です。特にイチオシは、「調査・研究報告」です。シギ・チドリ類調査結果（1987～）など、誌面の関係で『しらこぼと』では活字が小さくて見にくかったデータが見やすくなっています。まだ工事中のデータもあり、今後の充実に期待のコーナーです。3. 真ん中辺りに、「What's New」（新着情報）と「探鳥会風景」のコーナーがあります。ここには、最新の情報をタイミングよく掲載します。初めのうちはIT委員会で記事を書くつもりですが、行く行くはみなさんからの投稿を中心に、楽しいページにしたいと思っています。

4. 下の方、横一列に、いくつかの絵付の枠が配置されています。「動植物のページ」は、自然の素晴らしさを伝えるものなら何でもOKの自由なギャラリーです。会員の皆さまからの投稿画像（写真でもイラストでも）で飾りたいと思っています。「『しらこぼと』バックナンバー」も見ごたえ十分です。創刊号から前々年12月号までの『しらこぼと』を、ワンクリックで閲覧できます。表題と著者からの検索が可能です。

以上、ざっとご紹介しましたが、この原稿を書いている時点（9月3日）では未公開・工事中で、日々変化し成長しています。公開後も、皆さまのご支援によって、発展し続けたいと思います。ご協力、よろしく願います。
（文責：浅見 徹）



行事報告

11月3日(日) 松伏町 まつぶし緑の丘公園

参加：40名 天気：晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アマサギ アオサギ ダイサギ チュウサギ クイナ バン オオバン イカルチドリ トビ オオタカ ノスリ カワセミ アリスイ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ ホオアカ (37種) (番外：ドバト) 公園北側の丘造成工事もずいぶん進んできた。池のカモの数も少なく、楽しみにしていたミコアイサの姿も見えない。周辺の屋敷林でも冬鳥の姿が少なく感じたが、猛禽4種も含め37種は上出来であった。(橋口長和)

12月23日(月、休) 年末講演会

参加：60名 場所：浦和コミュニティセンター

年末恒例の講演会を実施した。本年も第1部「画像で振り返るこの一年」では4名の方の映像やスライドを觀賞。第2部では山科鳥類研究所標識調査員の榎本友好氏をお招きし、『バードウォッチングと鳥類標識調査(バンディング)』のテーマで講演していただいた。バードウォッチングとはやや縁遠い、鳥類研究の中での標識調査の意義や方法などのお話しを、興味深く学ぶことが出来た。(橋口長和)

1月11日(土) 松伏町 まつぶし緑の丘公園

参加：20名 天気：快晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ キンクロハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ オオバン イカルチドリ クサシギ オオタカ カワセミ チョウゲンボウ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス ヒバリ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ タヒバリ カワラヒワ ホオジロ ホオアカ カシラダカ

アオジ オオジュリン (35種) (番外：ドバト) この3年、公園の池が南半分結氷し、カモは日当たりのよい池北端に集まり、遠距離の観察になってしまう。周辺の屋敷林では冬鳥が姿を現し楽しませてくれたが、シラコバトの姿は最後まで見られなかったのが残念。(橋口長和)

3月29日(土) さいたま市 見沼自然公園

参加：31名 天気：晴

コジュケイ オカヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ キジバト カワウ バン オオバン オオタカ カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ アオジ (29種) 多くの参加者の視線は地面をさまよう。ゴミはないか〜!? 昨年もクリーン大作戦を実施したこともあり、ゴミがあまり落ちていない。「まだ1個もゴミを拾っていない!」と不満げな声も。煙草の吸殻、キャンデーの包み紙などが落ちてると、発見者の目が輝き、いそいそと拾う。ゴミ拾いは楽しくて、ハマるのである。ゴミ袋24個分を拾い、ゴミと共に記念撮影。あっ、そうそう、探鳥会も同時進行していたのだった。オナガガモの群れが去った池の面をツバメが飛び、バトンタッチの季節をしみじみと感ずることができた。(小林みどり)

3月30日(日) 加須市 渡良瀬遊水地

雨のため中止。(佐野和宏)

4月6日(日) 北本市 石戸宿

参加：58名 天気：晴

キジ マガモ カルガモ コガモ キジバト アオサギ バン ツミ ノスリ カワセミ コゲラ アオゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ツグミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (28種) (番外：ガビチョウ) エドヒガンザクラは散った後。ソメイヨシノは満開。東光寺の石戸蒲ザクラも満開。探鳥会で満開の蒲ザクラは初めてと思う。ヤマザクラもオオシマザクラも満開。レンギョウ、ウグイスカグラ、児童公園入口近くのタチツボスミレ、児童公園の土手のカタクリなどの花も楽し

めた。肝心の鳥は、人出に負けて寂しかった。それでも、園内のあちこちでアオゲラとキジの声が聞かれた。学習センター前で桜花の中のメジロを観察。桜並木で花の中を轉りながら枝渡りするウグイスを双眼鏡で追った。いつもより長い行程でお疲れ様。
(吉原俊雄)

4月6日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：52名 天気：晴

キジ マガモ カルガモ コガモ キジバト カワウ アオサギ バン オオバン オオタカ サシバ コゲラ チョウゲンボウ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ アオジ オオジュリン (34種) (番外：ドバト) どこへ行っても桜が満開。あちらこちらで花の香りが漂い、聞こえるのはキジの声やヒバリのさえずり。出会えた鳥の種類は、リストより少ない印象だったが、参加者の皆さんは、春の見沼を満喫できたのではないだろうか。(伊藤芳晴)

4月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加：48名 天気：晴

キジ ヒドリガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ ダイサギ コチドリ クサシギ トビ オオタカ ノスリ カワセミ コゲラ ハヤブサ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ヒレンジャク ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (38種) (番外：ガビチョウ) 桜はほとんど散っていたが、菜の花が咲いて木の芽も膨らみ緑が綺麗だった。ゴルフ場の端でツグミ、シメが採餌し、アオジが枝の中を移動していた。カワラヒワ、モズ♂、コゲラが鳴きながら飛び、ホオジロ、ウグイス、シジュウカラ、メジロがさえずり、ハヤブサが滑翔、ノスリ、オオタカも飛んだ。河原ではヒドリガモ、コガモ、カワセミ、クサシギ、コチドリを見た。遠い木にヒレンジャクが1羽。ヒヨドリが移動する途中なのかたくさんいた。ツバメが飛び、野鳥の森では、エナガ、ヤマガラ、ビンズイが出た。(千島康幸)

4月13日(日) 所沢市 狭山湖

参加：27名 天気：晴

キジ カルガモ コガモ カイツブリ カンムリ カイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ コチドリ トビ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ スズメ タヒバリ カワラヒワ ホオジロ アオジ (30種) (番外：ガビチョウ、ドバト) 狭山湖の北東に位置するトトロの森1号地の林地を中心に歩いた。新緑の梢でヤマガラがゆったりとさえずり、シジュウカラ、メジロも負けじと声を張り上げる。鳥を探しながら、フィトンチッドに包まれて快適な森林浴。ツバメ、イワツバメが夏を伝え、ツグミは冬を残す。終点の狭山湖ではカンムリカイツブリ、ハジロカイツブリのシンガリ組が夏羽でパフォーマンス。コチドリは陽光にアイリングを際立たせてアピールし、冬から夏へバトンタッチの役者が揃った。「おおかたの水鳥去りし湖に 残りし数羽いとおしみ観る」
(石光 章)

4月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：11名

相原修一、宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、小林みどり、佐久間博文、柴野耕一郎、志村佐治、藤掛保司、増尾隆

4月20日(日) 春日部市 内牧公園

参加：33名 天気：曇

キジ カルガモ キジバト アオサギ ダイサギ コチドリ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ ホオジロ ホオアカ アオジ (26種) 寒が戻って春らしくない曇り空の下、新緑に萌える里山を眺めつつ探鳥。アオジが珍しくさえずってくれたり、枯草にとまるホオアカ、緑陰の小径で落葉をあさるシロハラ、葉桜の樹上でついでついでにシメの群れと、冬鳥は未だ残留。メジロ、シジュウカラ、ヒバリ、ホオジロの留鳥たちも健在で、それぞれ得意な声を聞かせてくれた。夏鳥はコチドリ、ツバメ位でいまだしの感。とはいえ、それなりに内牧の鳥を楽しめた。
(石川敏男)



●葛西臨海公園東京五輪カヌースラローム競技場計画変更を求める運動続く

8 月号本欄で朗報をお伝えしましたが、最終的な変更案は検討中であり、計画変更はまだ確定していません。日本野鳥の会東京では、埼玉の会員たちも協力した署名 15,508 名分（ネット署名：3,426 名、署名用紙：12,082 名、8 月 10 日現在）を、8 月 19 日東京都庁で担当者を通じて提出しました。「報道によると、当会が候補として挙げていた、公園隣の都有地に変更する方向で検討されているようです。葛西臨海公園の自然環境に悪影響が無い変更案になるかどうか、今後も注目していく所存です。署名の受付は 9 月末まで続けています。」とのこと。もう一押しのご協力をお願いします。

●第 24 回鳥学講座

（公財）山階鳥類研究所と我孫子市鳥の博物館が、ジャパン・バード・フェスティバル 2014（11 月 1～2 日、我孫子市内）にあわせ開催します。

「恐竜だって、本当は鳥のようになりたい」講師：川上和人（森林総合研究所主任研究員、『鳥類学者、無謀にも恐竜を語る』の著者）

日時：平成 26 年 11 月 1 日（土）14 時 30 分～16 時 00 分（開場 14 時 15 分）

場所：アピスタ（我孫子駅南口からアピスタ・市役所経由バスでアピスタ前下車）

定員：120 名

参加費：無料（事前申込み不要）

主催・問い合わせ：山階鳥研（広報担当 TEL 04-7182-1101、E-mail koho@yamashin

a.or.jp）、我孫子市鳥の博物館（TEL 04-7185-2212）

●ごめんなさいコーナー

8 月号 7 ページ左欄「加須市佐間」は、「久喜市高柳」の誤りでした。行政境界が入り組んでいるところです。

9 月号 12 ページ左欄「山階好磨賞」は「山階芳磨賞」の誤りでした。

●会員数は

9 月 1 日現在 1,811 人。

活動と予定

●8 月の活動

8 月 9 日（土）『しらこぼと』9 月号校正（海老原美夫、大坂幸男、長嶋宏之、藤掛保司）。

8 月 17 日（日）役員会（司会：榎本秀和、各部の報告・ホームページリニューアル案の点検・その他）。

8 月 18 日（月）『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』9 月号を郵便局から発送（海老原美夫）。

●10 月の予定

10 月 4 日（土）研究部・編集部・普及部会。

10 月 11 日（土）11 月号校正（午後 4 時から）。

10 月 18 日（土）袋づめの会（午後 3 時から）。

10 月 19 日（日）役員会（午後 4 時から）。

編集後記

今年の夏、長年の憧れだった日本で一番小さいトンボ、ハッチョウトンボを見ることができた。全長 2 cm、十円玉で隠れるほど。たまたま近くにとまってくれた。間近で見るハッチョウトンボは驚くほど小さかった。暑い日で、日差しを遮るものもない所だったが暑さを忘れて見入ってしまった。（藤原）

しらこぼと 2014 年 10 月号（第 366 号） 定価 200 円（会員の購読料は会費に含まれます）
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉（〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号） TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/ 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
 （公財）日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社